

業績のご報告

● Performance Report

○当第2四半期連結累計期間の業績概要

当上半期における内外経済は、東日本大震災からの復興への兆しが見え始めたものの、超円高水準の定着、欧州諸国の信用不安の拡大、米国の景気減速、新興国のインフレ懸念等により、依然として極めて先行き不透明な状況で推移しました。

この環境下、当第2四半期連結累計期間の売上高は、前年度の事業統合による子会社の連結除外に伴う減収要因がありましたが、コンシューマは1,057億円となりました。時計は「G-SHOCK」や「EDIFICE」といったブランド製品が中国や北米を中心とした海外で引き続き好調に推移しました。シ

ステムは211億円となりました。その他は233億円となりました。

損益につきましては、コンシューマは58億円の営業利益となりました。時計や電子辞書は引き続き高収益性を維持しました。システムは震災後の法人需要の冷え込みにより、11億円の営業損失、その他は1億円の営業利益となりました。この結果、調整後の連結合計として31億円の営業利益となりました。また、経常利益は24億円、四半期純利益は9億円となりました。

主要財務指標(連結)

科目	第2四半期連結累計期間		
	2011年度	2010年度	2009年度
経営成績			
売上高	(百万円) 150,202	176,361	197,298
営業利益	(百万円) 3,163	5,272	△ 14,913
経常利益	(百万円) 2,466	5,069	△ 12,929
四半期純利益	(百万円) 907	2,558	△ 10,891
1株当たり四半期純利益	(円) 3.37	9.32	△ 39.26
財政状態			
総資産	(百万円) 380,584	376,312	409,808
純資産	(百万円) 145,982	149,533	164,865
その他			
設備投資額	(百万円) 3,426	3,137	5,378
減価償却費	(百万円) 3,197	3,715	5,759

○セグメント別の状況

15.6%

売上高 23,363百万円

●その他

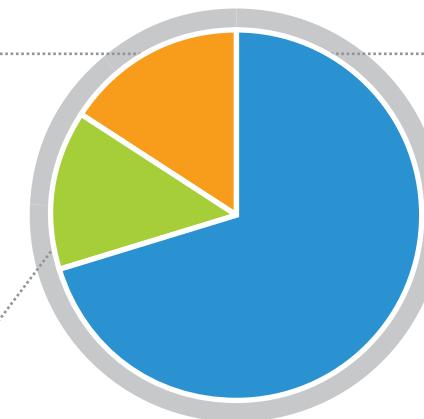
WLP受託加工、LCD、金型等

14.0%

売上高 21,102百万円

●システム

ハンディターミナル、電子レジスター、オフィス・コンピューター、ページプリンタ、データプロジェクター等



70.4%

売上高 105,737百万円

●コンシューマ

ウォッチ、クロック、電子辞書、電卓、電子文具、電子楽器、デジタルカメラ等

合計 150,202百万円

○通期の業績見通し

現時点での平成24年3月期の連結業績予想につきましては、上期実績は計画比上振れましたが、世界的な経済環境の不透明感を勘案し、前回予想(平成23年5月17日公表)を据え置いております。

当グループは今後も全世界で通用する独自技術を活かした新製品の積極的な世界展開により、長期的視点に立った収益力強化、経営・財務体質強化に取り組みます。

2011年度通期業績見通し(連結)

売上高	3,300億円 (前期比 △3.4%)
営業利益	200億円 (前期比 +66.1%)
経常利益	180億円 (前期比 +53.8%)
当期純利益	100億円 (前期比 +76.0%)